



青葉の森公園芸術文化ホール イベントレポート

当ホール主催の公演・講座の雰囲気をおみなさまに発信する「サポーターライターズ」の方によるレポートをお届けします。

EVENT REPORT

平成 29 年
12 月 10 日 [日]

新垣隆とみやままさと 「ようこそ、音の森へ」



出演
ピアノ 新垣隆
フルート みやままさと
ヴァイオリン 前野咲希
チェロ 清水亜裕美
マリンバ 五十嵐洋平

新 垣隆氏は、佐村河内守のゴーストライターとして一躍有名になったが、今日はそのマルチな才能が遺憾なく発揮されたステージだったと思う。新垣氏は優れたピアノ演奏者であり、ちょっととぼけた味のある編曲者で、作曲家でもある。プログラムは、バッハ、モーツァルト、ベートーヴェン、チャイコフスキー、ドビュッシー、ガーシュイン、と音楽の歴史を辿る形であった。どれも耳にしたことのある曲なので初心者にもわ

かりやすいが、クラシック音楽通にとっても刺激的であったと思う。というのも新垣氏のアレンジが素晴らしく、それぞれのパートの良さが十分発揮される魅力的なうえ、所々に違う曲のフレーズがひょうこり出てくるという遊び心に溢れている。例えば、カルメンのメドレーの最中に、「モルダウ」や「アントラの踊り(ペールギュントより)」の一部が違和感なくちょこっと顔を出す。もしかしたら、もっと違う曲も入り込んでいたか

もしれない。私は気がつかなかったが・・・。

また、客席からリクエストを受けてその場の即興で、ピアノを弾くというコーナーでは、「月の砂漠」「シヨパンの雨だれ」「冬のイメージ」という3つを、ただ順番に弾くのではなく、渾然一体となり、繰り返しフレーズが織り込まれ、それがいつの間にか「月の光(ドビュッシー)」につながって終わったときは拍手喝采だった。

みやまさん(フルート)、前野さん(ヴァイオリン)、清水さん(チェロ)、五十嵐さん(マリンバ)は、皆さん千葉県にゆかりのある演奏者で、若々しく生き生きとした演奏が印象的だった。

アンコールは、クリスマスシーズンに因んで「赤鼻のトナカイ」を演奏。そして終わったかと思いきや、先ほど演奏した「チャルダッシュ」が再び登場し、最後に「ラプソディー・インブルー」のフレーズで終わる、という心憎い演出であった。

「ようこそ音の森へ」というコンサートの題名そのままに、音の森の中をぐるぐる遊びまわって楽しんだような気分になった。

サポーターライターズ(伊藤正子



今 回の公演は、音楽家として活躍されている新垣隆氏によるクラシックコンサートでした。フルート奏者みやままさとさんと、千葉県出身の3人のお仲間と共に、ユーモアのある楽しいトークで会場を盛り上げてくれました。

プログラムはクラシックの歴史をたどっていく構成になっており、音楽の父バッハから始まりジャズまで続きます。

教会や宮殿などで育まれていった音楽が、やがて大衆の前で演奏されることを目的とした演奏に変わっていくお話はとても興味深かったです。

演目は、誰もが耳にしたことのある「G線上のアリア」「カレルメドレー」「ラプソディー・インブルー」など。新垣氏によるピアノだけの演奏に、フルート、さらにヴァイオリン・チェロ・

マリンバが加わると、一気に音楽の幅が広がります。

最初は、たったの5人でどのようにオーケストラの曲を演奏するのだろうかと思っていたのですが、十分に聞き応えのある演奏でした。

また、新垣氏による即興演奏では、客席からリクエストをもらい、「冬」「月の砂漠」「あまだれ」3つのテーマをイメージした曲を演奏されました。

最後はアンコールに代えて「花の歌」「赤鼻のトナカイ」の2曲を演奏し、会場はおおいに盛り上がりました。

あつという間の2時間で、クラシック初心者でも十分楽しめる内容でした。

サポーターライターズ(岡野愛子
写真/サポーター(カメラマン)
田邊定行
鈴木恵治